

【説明資料(提出ファイル)】 発明・工夫作品コンテスト 製作の動機または目的, 利用方法, 作品自体やその製作過程で工夫したことを, 文章, 写真, 図などで説明。この用紙1枚に記入し, PDFに変換した後, web 提出フォームにて提出する。

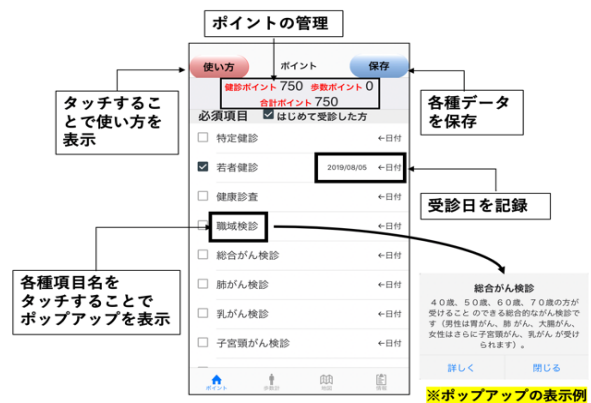
個人・グループ名	田中 寿弥	大学名	釧路公立大学
作品名	くしろ健康おうえんアプリ	人数	1名

1. 背景

北海道釧路市では健(検)診受診率が低い結果、病気による死亡率が高く、市民の健康教育と健康意識を変容させるスマートフォンアプリケーションを開発した。開発したアプリは、**健(検)診受診や運動、健康指導(健康行動)**に対し、**ポイント(電子マネー)付与やゲーム性のある歩数計、マップ・情報提供の各機能**を有し、健康を応援(支援)した。アプリ化した目的は、政府が**デジタルトランスフォーメーション(DX)**を推進しており、電子化によって、機能の**多様化・利便性**の向上に加えて、利用者情報(年代、性別など)の**デジタルデータ(ビックデータ)**が収集可能である。開発したアプリは、釧路市の「健康ポイント事業」と連携しており、約600人に利用されている。

2. アプリケーションの機能

ポイント機能では、ポイント(電子マネー)付与や情報提供によって、市民の健康意識を変容させた(調査結果)。利用者は自身の健康行動をチェックすることによってポイントを取得できる。チェックだけでなく、受診日を入力することで**自身の受診・参加状況を記録・確認**できる。また、未チェックの健康行動は各種“項目名”をタッチすることで、**ポップアップによる簡易な説明**が表示される。さらに、“詳しく”をタッチすることで、**市のサイト(専用ページ)へ遷移**し、情報のアクセシビリティを最大限に高め、アプリ利用者の親近感を高めた。



ポイント機能画面

歩数計機能では、スマートフォンの加速度センサーによって歩数が自動記録される。歩数の記録計数に対応して、**キャラクターが成長するというゲーム要素**を導入(ゲーミフィケーション)した。仕掛けは、6000歩達成することで、キャラクター(釧路市のゆるキャラ“つるまる”)が誕生し、ポイントが付与される。ゲーム要素で、**健康意識に対する精神的ストレスの軽減や運動習慣の持続性を支援**した。



歩数計機能画面



マップ機能画面



情報機能画面

マップ機能では、“コース名”をタッチすることで**ウォーキングマップと詳細情報(距離、所要時間、消費カロリーなど)**が表示される。釧路市のウォーキングに適したコースを推薦し、利用者の運動する意識を高め支援した。

情報機能では、主な情報源である釧路市の Facebook と HP への遷移ボタンに加えて、健康に関する情報を**カテゴリーごとに分類**し、“各種ボタン”をタッチすることで詳細情報へ遷移することができる。

3. 工夫点

- Point1** ポップアップによる簡易情報と市のHPの詳細情報を機能的に分けることによって、利用者は必要な**情報量を選択**でき、利便性を高めた。**ポイント機能**
- Point2** **ゲーミフィケーション**を導入することで、健康のために無理やり歩くという概念から、楽しみながら運動に健康意識を変容させた。**歩数計機能**
- Point3** ウォーキング時のコースの付随情報(距離、所要時間、消費カロリーなど)を表示することで、**利用者に適した運動のコース選択**を支援した。**マップ機能**
- Point4** 情報をカテゴリーごとに分類することで、市のHPの総合ポータルから検索することなく、**ダイレクト(最短)に知りたい健康情報にアクセス**できる。**情報機能**